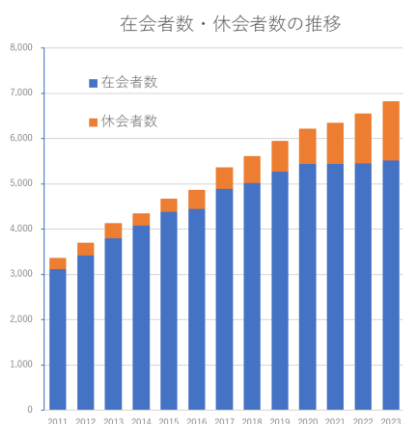


## 令和6年度定時総会事前質問と回答

淡路支部 畑山浩志氏

1 (会員動向について) 近年、兵庫県理学療法士会の会員は微増となっています。少し気になるところが、経年的にみると入会者は370~470人いるのに対して、退会者および休会者の方の増加と復会者の少なさが課題になっていると思います。退会者および休会者と復会者の現状分析をどうお考えでしょうか。また、この課題についてどのような取組を検討されていますか。ひとまず休会に、その後退会にいたるケースが増えるのではないかと懸念しております。淡路支部の会員から、「新人・若手会員の加入を促進し、組織率を維持ないし増加される活動を期待する」のお声を頂いております。

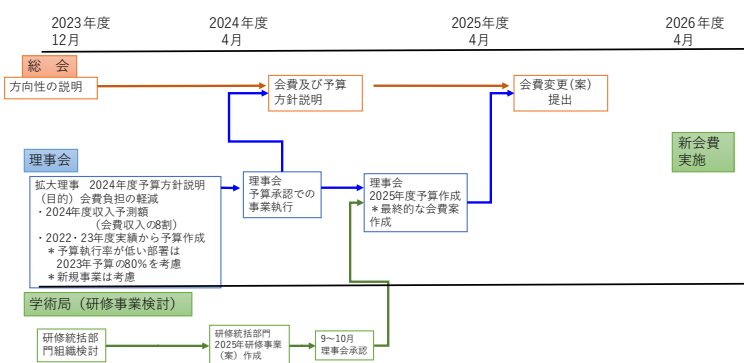
### 【回答】



総会における事業報告でも述べさせていただく予定ですが、会員の動向については注視し、例年対策をとっております。左表は兵庫県理学療法士会の在会者、休会者数を示しております。昨年度は、休会者数の増加を防ぐことはできておりませんが、在会者はここ数年ほとんど変化ないもの、わずかですが増加しました。また、退会者は、2021年234人、2022年222人、2023年202人と僅かですが減少傾向がみられております。ただ、その内訳をみますと、任意退会者は2023年140名と昨年とほぼ同様で、ここには歯止めがかかっておりません。

県士会などで行ったアンケート結果をふまえ、これらに対する対策として、今までの対策に加え、昨年度から会員負担である会費の検討(右図、総会資料にその詳細記載)、および要望として多い研修事業の検討を行う研修統括部門を設置し、その対策事業を進めております。今後も会員の動向を把握しつつ、適切な対策が必要と考えております。

### 会費検討スケジュール



2 (代議員制度について) 今年度、代議員選挙が実施されましたが立候補する方が少なかったことに対して、兵庫県理学療法士会は今後どのように代議員制度を推進したいとお考えでしょうか。

### 【回答】

代議員選挙において立候補者が少ないことについては、問題と認識しております。しかし、

現状、理事会等において、代議員制度の変更等の議論は進んでおりません。昨年度から代議員・理事連絡会を設置しております。この中で、代議員の役割として、①会員の意見を集約して会長に提言、②士会活動の方向性などについて会員に発信、などを持っていただきたいと考えております。この連絡会を通じて、会員・代議員の皆様の意見が士会事業によりスムーズに反映されるようにしたいと考えております。また、この場を利用し、より良い代議員制度についてご議論、提案いただくことも可能と考えております。

3（**研修会について**）支部主催の研修会は、2700人から3200人へ増加していることはとても素晴らしいことだと思います。より多くの会員の方に研修会参加してもらいたいということで、延べ人数ではよい結果ですが実人数の参加はどのようなのでしょうか。各研修会についての分析はどのようなのでしょうか。今後の研修会の在り方についてお考えはありますか。

**【回答】**

支部主催の研修会につきましては、実履修者数（2回以上参加した会員を1名に換算）は1073名（履修登録者のみ）でした。支部が主催する研修会は、「その他研修会」であり、履修ポイントは、登録PT、認定PT、専門PTの更新に必要となります。

現在、登録PT、認定PT、専門PTを取得されている会員数は2341名（令和6年6月23日現在）であり、45.8%の会員が研修会に参加されている状況です。また、登録PT以外の参加者（前・後期研修対象者で参加された方）は現時点では不明の状態です。今後研修会開催時のカウント方法や更なる参加促進に向け、支部運営審議会、学術局と協議を進めてまいりたいと思います。

4（**県学会について**）昨年度の兵庫県理学療法学会の参加者は937名と多くの方が参加するようになってきていますが、若い理学療法士が学会に参加するきっかけづくりとして、例えば、新人の理学療法士（1年目～3年目まで）の方の参加費を無料もしくは安価にするなど取組は難しいものなのでしょうか。

**【回答】**

県学会大会準備会議にて協議した結果、学生は無料、新人の理学療法士は1000円（一般会員3000円）と設定しております。

今後も、学術活動に興味を持っていただけるよう、新人が県学会に参加しやすくするために参加費の継続的な負担軽減を検討いたします。

5（**新人および新入会者説明会・研修会について**）近年、土曜日や日曜日に勤務する新人理学療法士の方も増えてきていると推測されます。新人および新入会者説明会・研修会を1会場1回だけの実施を、数会場数回の実施することはできないのでしょうか。行きたくても日程の都合で行くことができないとの声をお聞きしました。

## 【回答】

会場の予約や講師の日程調整、スタッフの配置など複数回実施が困難な状況ですが、検討させていただきます。なお、今後も新入会者説明会・研修会の案内をできるだけ早めに周知したいと思っておりますので、各施設において新人の出席について御配慮をお願いしたいと存じます。

6（会員のメリットについて）淡路支部の独自でとったアンケート調査より「兵庫県理学療法士になったメリットはありますか」の質問では、令和5年度で「なし」「わからない」と答えた方は56.4%、令和6年度で「なし」「わからない」と答えた方は50%と半数の方がメリットを感じていない結果でした。また、「次年度以降も兵庫県理学療法士会へ加入しますか」の質問では、令和6年度で「わからない」と答えた方が10.5%でありました。今も様々な方法でメリットを発信していると思いますが、今後も積極的なメリットについての啓発が必要だと思われまうがどうお考えでしょうか。

## 【回答】

多くの理学療法士が兵庫県理学療法士会への加入メリットを感じていないという結果は、県士会の活動や提供されるサービスが十分に伝わっていない可能性があり、大変重く受け止めております。その対策として兵庫県理学療法士会として取り組んでいる内容を以下に説明させていただきます。

### 1. メリットの具体化と可視化 ～HP刷新と研修機会の増加および広報の充実～

県士会ホームページをレスポンスデザインに刷新し、モバイル端末からの閲覧がしやすいように対応しております。その中で理学療法士賠償責任保険の説明やクラブオフ制度の紹介など具体的なメリットを追加掲載しております。研修機会を増やしてほしいとの会員の声を受け、座学の研修会は開催場所に関わらず参加できるようにWEB研修会として開催しております。その研修会の中から講師の承諾を得たものを録画し、期間内にいつでも再視聴できるようにサイトを構築しております。また、アーカイブサイトを充実させるために、各部が講師からの長期間の掲載許可をいただけるように毎回交渉を試みております。さらに、今年度からは新型コロナウイルスの収束をきっかけに対面実技講習も再開しており、日々の臨床に直結できるような企画を実施予定となっております。このような様々な研修計画を一覧にして各施設に郵送しております。昨年までは1年間の研修計画を年度はじめに集約し発送しておりましたが、より研修の詳細を会員に届けるために今年度より上期と下期に分けてご案内させていただきます。毎年の取り組みとして、メーリングリストでの広報は継続しており、多くの会員に開封していただけるメールとなるように努力しております。

### 2. コミュニケーションの強化 ～管理者ネットワークの充実と支部コミュニティー再建～

新型コロナウイルスにより奪われた近隣施設間の情報交換の場を再建するために、管理者の集まる場を提供し管理者同士が情報交換できる管理者ネットワーク会議を昨年度より多く開催しております。また、会員にとって一番身近である理学療法士のコミュニティーとしての

支部の役割を見直し、研修の企画だけでなくコロナ禍以前のような会員同士の情報交換の場を提供できるような企画を今年度より再開いたします。SNS では語れない、より深いコミュニケーションを目指しています。そして会員同士の連帯感が生まれ、県士会への参加意識が高まることを期待しております。

### 3. 会員の声を反映する仕組みづくり ～代議員・理事連絡会の開催～

昨年度より代議員・理事懇話会を実施し、各支部の代議員と理事との間で代議員が感じている現状や会員の思いを知る機会を設けました。今年度は昨年度の代議員・理事懇話会で議論した内容を基に、11 支部ごとに代議員と理事が直接意見交換できる連絡会を開催する予定です。8 月から 11 月の期間に副会長 3 名と支部担当理事が支部ごとの代議員と連絡会を通じて意見交換を実施し、その内容を集約して理事会で協議する仕組みを進めております。また、次年度以降は各代議員が会員の意見を集約できるような仕組みをベースとした代議員・理事連絡会に発展できるように準備しております。

今後も積極的に県士会に所属するメリットを発信し、会員との双方向のコミュニケーションを強化することが重要と考えております。まずは、県士会の運営に携わっていただいている約 300 名の部員や各支部代議員の理学療法士にしっかりと説明させていただき、そこから多くの支部に所属する理学療法士へ県士会への加入メリットが伝わるように努力したいと考えております。

## 7 (淡路支部の会員の声)

- ① 士会のホームページは情報の検索がしにくく使いにくい。情報発信のツールとして HP が理学療法や士会の啓発に役立っているのだろうか。

### 【回答】

ご指摘いただきました士会ホームページのサイト内検索および各部の案内がわかりにくい点につきましては、今年度の予算にてホームページの修正を発注済みです。皆様のご意見を反映するために、毎年少額ではありますが予算を計上し、今後も継続的にブラッシュアップを行う予定です。

- ② 今後 5 年や 10 年後などのプランはあるのか。

### 【回答】

現在の兵庫県理学療法士会において、5-10 年後の長期計画を実際に検討できているわけではありません。現在、兵庫県理学療法士会は、総会資料 (p 55-56) に示しております目標を設定し、事業を行っております。主な目標は、1.士会員の生活を守るための事業、2.資質の向上、3. 女性活躍の推進、4.事務局機能の充実、5. 士会事業・予算の検討、となっております。また、これらの活動を通じて、組織率の向上を目指していることも事実です。これらの目標は、一般

に組織が作成する短期から中期目標となると考えます。

本年度より、兵庫県理学療法士会ミッション・ビジョン策定ワーキンググループ（WG）の活動を開始いたします。このWGは当士会が現在そして未来に向けて、会員や社会に対して果たすべき役割（ミッション）と、あるべき姿（ビジョン）を言語化して、会員や県民の皆様と共有し、実行すること、であります。ご質問のような、組織による中期・長期目標とは少し異なる点はございますが、兵庫県理学療法士会が目指す社会的な役割、あるべき姿を考える機会であると考えております。

③ 人財育成の観点から、理事定年制（例えば55歳、それ以降は顧問やサポーターまたは代議員に回るなど）や任期制限（例えば5期10年）は検討されるか。

【回答】

現在、理事の定年制、任期制限は理事会の議題には上がっておりません。現理事とご質問にある理事定年制、任期期限を考えますと、55歳以上の理事で任期が長期にわたっているのは、会長含め20名中3名程度となります。現状の理事の傾向を見ますと、理事定年制、任期制限がなくてもある程度の役員交代は生じております。特に近年の2回の役員選挙において多くの役員交代が行われております。

④理事や代議員の方々は少なくとも全員が登録PTで間違いはないだろうか。会員に取得を促すなら、隗より始めよと考える。

【回答】

理事は全員登録理学療法士となっております。代議員は立候補要件には登録理学療法士になっておりませんので把握しておりません。

今後も会員の登録理学療法士の取得に向けて取り組みを進めてまいります。

④ 講義が対面の場合は交通の便が良い場所がいいです。

【回答】

研修企画段階で会場の収容能力・設置器材・空き状況によって会場を設定しておりますが、可能な範囲で交通の便が良い会場を設定していきます。

神戸西支部 清水俊行氏

### 1 兵庫県理学療法士学会参加費について

参加者や発表者を募ることや会員の登録、認定 PT 取得を促すためにも、参加費無料にできないか？学会参加費の収益 240 万は、

【回答】

#### ① 兵庫県理学療法学会の参加費について

上記質問（4（県学会について））と同じ内容と考えられました。同様の回答を記載いたします。

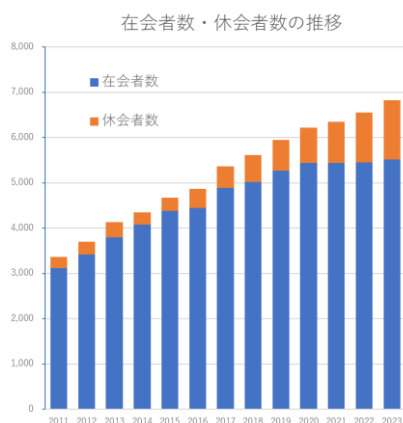
前回学会終了後のアンケートにて、参加費はもう少し高くてもよいという意見も頂戴していましたが、参加費は前回同様 3000 円に据え置いております。県学会大会準備会議にて協議した結果、学生は無料、新人の理学療法士は 1000 円と設定しております。

（2 年目から 3 年目についても協議いたしましたが、参加費 3000 円としていることもあり、新人との差別化ということで、3000 円にさせていただきました。）

今後も、学術活動に興味を持っていただけるよう、新人が県学会に参加しやすくするために参加費の継続的な負担軽減を検討いたします。

#### ② 兵庫県理学療法士会の組織率、および会費について

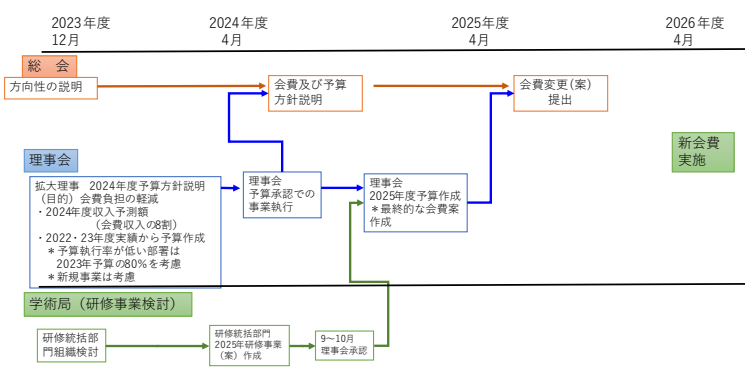
上記質問（1（会員動向について））と同じ内容と考えられました。同様の回答を記載いたします。



総会における事業報告でも述べさせていただく予定ですが、会員の動向については注視し、例年対策をとっております。左表は兵庫県理学療法士会の在会者、休会者数を示しております。昨年度は、休会者数の増加を防ぐことはできておりませんが、在会者はここ数年ほとんど変化ないもの、わずかですが増加しました。また、退会者は、2021 年 234 人、2022 年 222 人、2023 年 202 人と僅かですが減少傾向がみられております。ただ、その内訳をみますと、任意退会者は 2023 年 140 名と昨年とほぼ同様で、ここには歯止めがかかっておりません。

県士会などで行ったアンケート結果をふまえ、これらに対する対策として、今までの対策に加え、昨年度から会員負担である会費の検討（右図、総会資料にその詳細記載）、および要望として多い研修事業の検討を行う研修統括部門を設置し、その対策事業を進めております。今後も会員の動向を把握し

#### 会費検討スケジュール



つつ、適切な対策が必要と考えております。

## 2 研修会開催回数について

支部化を進め、各支部の研修会の回数が増えているが、コロナ禍で各研修会がオンライン化していることで、どこにいても研修を受けれるようになっている。各支部年間 1 回でも、十分であり、研修会を各支部で開くことが重荷になっていると聞かれる。また無理やり研修会を行い、参加人数が少なすぎるものもみられます。

### 【回答】

支部運営審議会では、研修会開催については、年に最低 1 回を依頼しております。それ以上の回数については、「支部の独自性」の範囲で判断を委ねている状況です。一方で支部間における研修会開催回数にはばらつきが大きく、地域格差が生じていることは懸念事項として捉えております。

ご指摘の通り、研修会のリモート開催に伴い支部の垣根がとれたことで、地域格差が緩和している一面もあり、11 支部が企画することで全体的に会員の皆様に研修会の場を提供できていることは、大きな意義があるとも考えております。

今後は研修会開催による支部の負担と、会員への公平なサービスの提供について支部の意見を聴取しながら適宜協議、対応できればと考えております。

加えて、登録理学療法士更新において、同一カリキュラムコードのポイントは加算・上書きができません。この制度への対応として、2024 年度より士会内に研修調整部門を設置し、各部・局や支部で企画している研修会を把握することで、日程やテーマ、講師、カリキュラムコード等が重複することを避け、会員に対しジェネラリストとして幅広い知識習得の機会提供と効率の良いポイント取得ができるようにしたいと考えております。また、こうした取り組みが各部・局や支部への負担軽減にも繋がると考えております。